

重要文化財 月華殿

保存修理事業



お蔭様をもちまして、一年余の長きにわたり
行っていた月華殿の工事は、二〇二四年三月を
もって無事竣工を迎えることができました。
これからも創設者・原三溪より受け継いだ
「三溪園」の保存に努め、皆様から親しまれる
施設をめざします。
引き続きましてご支援・ご愛顧のほどよろしく
お願い申し上げます。

Thanks to your support, the construction of the Gekkaden, which had been in progress for over a years, was successfully completed in March of 2024

We will continue to make efforts to preserve Sankeien, which was inherited from the founder, Sankei Hara, and aim to make it a facility that will be cherished by everyone.

We look forward to your continued support and patronage.

月華殿では令和4年11月より、今後も長くこの建物を守り続けるための「保存修理工事」を行ってまいりました。最大の目的は傷みの著しかった屋根を葺き替える工事、檜皮葺と柿葺の屋根の葺き替えです。文化財建造物の維持管理は日本古来の伝統技術を用いて行われ、特に檜皮葺・柿葺屋根の葺き替えは、関東圏ではめったに見ることのできない大変貴重な工事であったことから注目を集めました。

併せて今回工事では、今後発生しうる大規模な地震に耐えられるよう耐震補強工事を行いました。工事にあたっては、文化財としての価値を尊重して、見た目や素材に配慮した設計施工が行われています。

月華殿は通常は内部非公開ですが、工事が無事竣工を迎えたことを記念して、今後特別公開を実施する予定です。



檜皮葺き・柿葺きとは？

日本では古来、植物を材料として屋根を葺く（＝屋根を作る）ことが行われてきました。中でも檜皮＝檜の樹皮は防水性に優れ、薄く柔らかい素材であることから優美な曲線を持つ屋根を葺くことができ、屋根の中でも最も格式の高いものとして社寺や宮殿建築などで多く用いられてきました。木を割り裂いて作る板材を使って葺く屋根は、森林資源に恵まれた日本で古くから用いられていた屋根になります。中でも1分＝約3mmもの薄さの板（柿板）で葺く「柿葺き」は、板の薄さゆえに作ることが出来る緩やかな屋根曲面が魅力、日本が誇る匠の技の象徴です。

しかし屋根は常に風雨や強い日差しに晒される箇所であり、徐々に劣化し時に雨漏りなどの大きな被害をもたらすこともあります。そのため定期的な作り替え＝葺き替え作業は欠かせず、檜皮葺き・柿葺き屋根の場合およそ30年毎に葺き替えが行われます。

月華殿の屋根は、昭和63年（1988）以来大規模な葺き替えは行われておらず、劣化は深刻な状態でした。